



## 有松まちづくりの会役員会（4月25日）

竹田会長より、新年度も有松のまちづくりに対する益々の尽力をとの話があり、本年度より自走化をする日本遺産事業の内「有松史料調査保存会」活動の継続を申し合わせた。

また、5月19日(木)に実施予定の令和4年度の総会に向けて、

- ・ 令和3年度の報告事項及び収支決算
- ・ 令和4年度の事業計画及び収支予算案

について内容の確認を行った。

井桁屋の藤 ⇒



## 有松近況

4月10日、有松のまちをふらっと歩いてみました。日曜日なのに東海道を行き交う人もまばらです。竹田嘉兵衛商店で展示会が開かれているようで、そこを出入りする人の姿が見られるくらいです。感染者の下げ止まりが懸念されている状況を表しているのかもしれませんが。

それでも春という季節は人々に明るさをもたらすようでもあります。有松・鳴海絞会館の駐車場奥にはウコン桜が満開を迎えています。木のそばに植樹されたきんさん・ぎんさんの紹介パネルが掲げられていました。お二人の元気が伝わってきます。有松駅ではあないびとの会の方が町並み案内をされていました。ガイド風景が似合う有松。これからもっと多く見られるといいです。毎週土・日曜日に公開している岡家住宅に立ち寄り当番の方に様子をお伺いすると、「遠方からわざわざお見えになる人もいます。北海道からの再訪者もいましたよ」とのこと。

有松のまちの素晴らしさを感じ取ってくださる人が、コロナ禍の中でも絶えることなくいらっしゃることを実感することができました。

今年は「STILL ALIVE 国際芸術祭 あいち2022」が7月30日から10月10日までの73日間、有松でも一宮市・常滑市とともに主会場の一つとして開かれます。重伝建・日本遺産のまち有松。今後の有松を占うかのようなイベントに興味津々です。ボランティアとして関わられる人も少なくありません。



ウコン桜



有松駅前でのガイド風景

国際 ⇒  
芸術祭



竹田邸での展示会

## 特集 有松日本遺産シンポジウム(3月21日)報告 「 後世に語り継ぎたい有松の美 」

有松の未来30年を考えるシンポジウム。重伝建選定など目に見える形での充実が図られてきた有松の今後について、示唆に富む内容でした。

### 基調講演 「The Power of ”美”」 ジェレミー・ハンター氏

#### ◆ 講師紹介

曾祖父が力士、祖母が有松近くに在住。子供時代に有松絞りに接したという日本になじみの方。また自身、不治の病宣告の体験からマインドコントロールできるようになったことやドラッカー大学院准教授としてドラッカーのセルフマネジメントの研究に裏付けられたお話をしてくださった。具体的には、400年間に渡り続いてきた有松絞りについて「なぜ長く続いたのか?」「過去にとらわれずにやっていくには?」という問いへの返答でもあった。

#### ◆ どのようにして変化に対応していくのか

対応へのスキルがある。変化を好む人、現状がいい人、様々。そのバランスが大事です。私は町並みの景観が好きで、木曾に行ったことがあります。そこで次のことに気づきました。景観の美しさは、畳の寸法で建物全体が建てられているからだ、と。

#### ◆ 美の力

日本の美がいかに西洋に影響を与えてきたか私は学んできた。アメリカ最高の建築家ライトは帝国ホテルを残している。彼の建物は4フィート×4フィートの枠で決められ、調和が出され日本らしさがある。日本の版画にも深く影響を受けている。ゴッホも版画からアイデアを受けている。漢字までコピーしている。

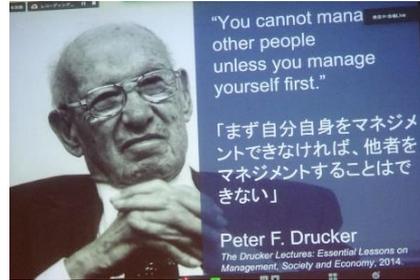
#### ◆ ドラッカーの5つの質問

同じ表題の本がある。質問の目的は何が重要でどのような道筋があるかを明確にすること。有松では定期的に問いかけることが大事である。内2つを紹介。「我々のミッション」は有松絞りでは何を達成しようとしているか。「顧客は何に価値を置くのか」は気に入ったものを買うとのこと。つまり、価値は顧客によって生み出されるもの。商品と出会った「感動」が「欲しい」という行動につながる。根本的な価値は感情から生まれる。

#### ◆ 未来に向けてどう生まれ変わっていくか

時間は周期的に進む。何もないところから生まれ、存在し、成熟し、減少し、消えていく。また、新たなスタートである。この狭間の期間に新たな形を生み出さなくてはならない。しかし、行き詰ることがある。乗り越えるためのスキルもある。「何かが終わろうとしたら、別のことを試みる」こと。次の一步を踏み出す勇気も必要である。写真はさなぎ。未知を表している。

某刃物メーカーでは、職人不足の中、若者にのびのびと働いてもらったところ、業績向上した。



ドラッカー氏



木曾の宿場



帝国ホテル(明治村)



広重作品

ゴッホ作品



狭間のイメージ図

## パネルディスカッション

名古屋国際工科専門職大学教授 佐藤久美氏を進行役に迎えて「私たちが思う『有松の美』」についてそれぞれに語っていただきました。

### 山上正晃さん : 山上商店

従来の絞り染めの服に加え、新しいファッションブランドを立ち上げ活躍されている。

有松で仕事を始めて20年。多くの女性たちに支えられてきた。当初はまちに活気があり、誇りを持って仕事をしてきた。一体感があった。背景に天満社祭礼の山車祭りがある。「まちを守ろう」との意識が近年高まってきた。今後、物づくりしながら暮らしていけるまちにしたい。

### 天満社でのイベント 山上さん



### 加藤明美さん : 有松あないびとの会

会長として先頭になって、有松を訪れた人たちに有松の魅力を発信し続けている。

私が美しいと思うのは、絞り産業がもたらした東海道沿いの町並みです。屋根瓦・漆喰壁で建てられている。天満社は「尾張名所図会」に描かれた景色が現在まで繋がっている。他に重厚な竹田邸茶室も素敵な案内スポットです。

### 加藤さん 尾張名所図会の天満社

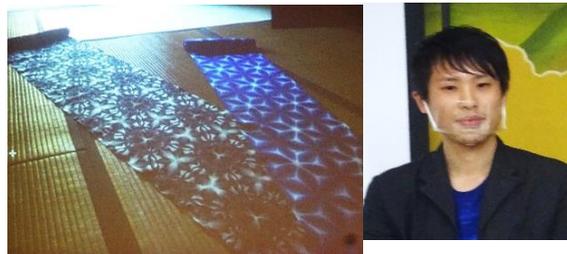


### 藤井祥二さん : 染色家

大学でデザインの勉強会をした後、絞りの世界に入った。普段は染色業をしている。

作品展示の場として竹田邸茶室を使う。暗い部屋、差し込む自然光による鑑賞がよい。私は絞りの色や柄より光の変化を楽しんでいる。身近にある染物には、深い世界が潜んでいる。それが有松の美と思う。

### 竹田邸茶室と作品 藤井さん



### 村瀬弘之さん : スズサン

家業のデザイン部門(絵刷)を担当。現在ドイツ在住20年。2008年ブランド(ファッション・インテリア)を立ち上げる。

有松の美を地域の美しさと捉え、「継続・循環・生活」をキーワードに紹介。継続とは江戸時代から今日まで作り続けられてきたこと。循環とは作り手も販売先も一人一か所に留まらないこと。生活とは有松の人と共に有松絞りは存在してきたこと。これからも産地であり続けたい。

### 村瀬さん 有松の町並み



## まとめ—30年後の有松

30年後の有松を考える上で示唆に富む提言であった。後の意見交換でも「海外に場所を変えることで価値が再発見できた」「世界に見てもらおうことで新たな価値に気づかされた」などの発言もあった。1992年からの国際絞り会議も大きな影響を与えたとのことである。

最後に、30年後に向けて「つなげていきたいものを語り続けていきたい」(加藤)「残すべきものは何かを考えたい」(村瀬)「人々が心を込めて作ったものの価値は不変だ」(藤井)とのご指摘をいただいた。より具体的に述べるなら、日本各地世界各地から人が集まってくる有松にしていきたい。有松をサローネ(客間)として、人々をもてなす。触れ合いの中から新しい有松の文化が創り出されていく—そのような有松に発展してほしいとのことのようである。

## 有松文芸のこみち⑥

山村幸雄

有松旧東海道沿いに歌碑が7基ある。

今回は唐子車山車庫横にある糟谷磯丸の歌碑を紹介する。

『 そめそめて あけも美とりも 有松の  
里の栄は 色にても知れ 磯丸 』

作者 糟谷磯丸 (かすや いそまる、1764~1848)

渥美半島の先端伊良湖村(田原市)の生まれ。名を新之丞、諱を貞良。生涯旅をしながら数万首の歌を作ったといわれている。

《標札文》

明和元年(1764)~嘉永元年(1848)八十五歳没。伊良湖村の漁夫の出、通称新之丞、貧窮の為病の母を医者に診せる事が出来ず、三年間、伊良湖神社へ平癒祈願に日参し、献額の古歌に興味を持ち、三十七歳頃から文字を覚え、仮名文字や和歌を能くした。郡奉行、井本常蔭が此れを賞揚し、磯丸と名を与える。

文化八年(1811)京都、芝山持豊に入門、貞良と名を授かる。一庶民ながら天皇出御の新嘗祭に紫宸殿へ参殿の栄に浴す。当時極めて稀のことである。

《設置のいきさつ》

平成17年5月 中町年行司および唐子車山車庫竣工記念として、有松天満社文嶺講が近藤好彦氏のアドバイスを受け設置。



中町山車庫西側の磯丸歌碑

### 神功皇后車について 2

神功皇后車の大幕は猩々緋で正面に「金龍町」。水引幕は一枚続き、白羅紗地に牡丹・杜若・水仙・芙蓉などの花が刺繍されている。後面には黒糸で「小華筆」とある。渡辺華山の二男。

からくり人形は、神功皇后が鮎を釣って神意を占った故事による。神官は御幣を左右に振り、目と口を開閉し口から舌を出す。

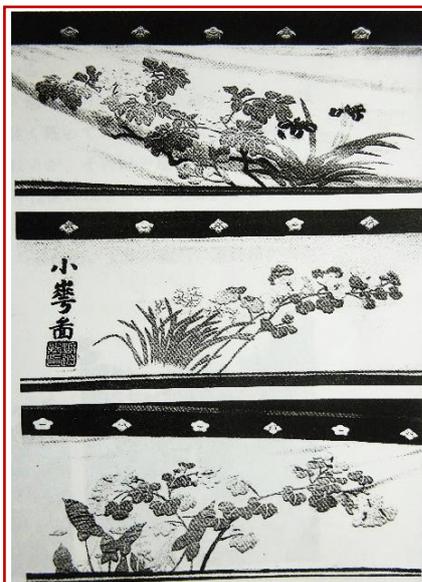
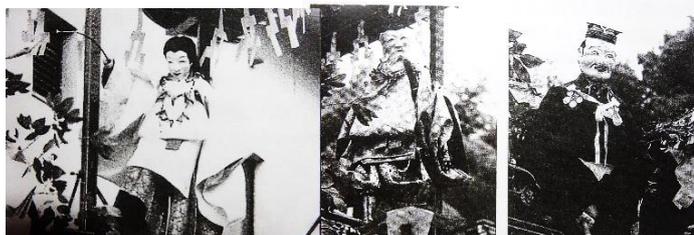
左から

神功皇后

武内宿禰

神官

水引幕



### 催事・行事の予定

～8日(日) 有松・鳴海絞り鯉のぼり展示 有松東海道沿い

5月6日(金) 19:30 NPO法人 桶狭間古戦場古戦場保存会総会 桶狭間公民館

5月16日(月) 18:00 有松町並み相談会 コミセン

5月19日(木) 13:30 有松まちづくりの会総会 絞会館

5月22日(日) 7:30 かえで道清掃 有松まちづくりの会

5月23日(月) 18:00 有松まちづくりの会役員会 コミセン

5月29日(日) 9:00 町内一斉町美活動

発行者 竹田嘉兵衛 (有松まちづくりの会 会長)

編集者 加藤 明美 (有松まちづくりの会 広報部員)

pegasusb@mc.ccnw.ne.jp

有松まちづくりの会は、ホームページを公開しています。

